



CCSBT-EC/1110/12

Total Allowable Catch and its Allocation

総漁獲可能量及びその配分

Purpose

目的

To provide relevant background information to support the Extended Commission's deliberations on the Total Allowable Catch (TAC), Research Mortality Allowance for 2012, and allocation of the TAC from 2012.

2012年以降の総漁獲可能量（TAC）、2012年の調査死亡枠及びTACの配分に関する拡大委員会の議論に資するため、関連する背景的情報を提供する。

(1) Total Allowable Catch (TAC)

総漁獲可能量（TAC）

At CCSBT 16, the Extended Commission reached agreement on the TAC and its allocation for 2010 and 2011 as described at Attachments A and B. The average TAC for 2010 and 2011 was set to 9449t, with Members being given the flexibility to decide on the split of their allocation between 2010 and 2011. CCSBT 17 further decided that this TAC allocation was considered a 2 year total TAC, and could be distributed across the two year period, with unused catch from the first year carried forward to the second year. CCSBT 17 also agreed that there would be no carryover of unused quota from 2010/2011 to 2012.

CCSBT16において、拡大委員会は、別紙A及びBのとおり2010年及び2011年のTAC及びその配分について合意した。2010年及び2011年のTACの平均は、9449トンに設定され、メンバーは自身の配分を2010年及び2011年に柔軟に分割することとした。さらに、CCSBT17は、このTACの配分は、2年間の合計のTACと見なし、2年間に跨って振り分けることが可能で、1年目に消化しなかった漁獲量は2年目に繰り越されることに合意した。またCCSBT17は、2010/11年における未消化の割当量は、2012年に繰り越さないことにも合意した。

A decision on the TAC for 2012 is required at CCSBT 18. The August 2011 Special Meeting of the CCSBT agreed that the management procedure will be recommending the TAC for 2012 to 2014 inclusive.

CCSBT18では、2012年のTACを決定する必要がある。2011年8月の特別会合は、管理手続きが2012年から2014年までのTACを勧告することに合意した。

Recommended TACs for the 12 variants of the management procedure that are being considered are provided in paper CCSBT-EC/1110/18.

管理手続きの12のバリエーションによって勧告されるTACは、目下検討中であり、文書CCSBT-EC/1110/18として提供されている。

(2) Research Mortality Allowance

調査死亡枠

The following requests for Research Mortality Allowance for 2012 were endorsed by the Extended Scientific Committee at its meeting in July 2011:

2012年における調査死亡枠に関する以下の要請が、拡大科学委員会の2011年7月の会合によって支持されている。

- 1.0t for trolling survey in the 2011/2012 season by Japan; and
2011/2012 漁期において日本が実施するひき縄調査用に1トン
- 5.0t for continued deployment of archival and pop-up satellite tags.
アーカイバル及びポップアップ衛星タグの継続的な装着用に5トン

The Extended Commission needs to decide whether to approve this request.

拡大委員会は、この要請を承認するか否か決定する必要がある。

(3) Allocation of the TAC

TACの配分

Allocation issues to be considered by CCSBT 18 include:

CCSBT18で検討すべき配分に関する課題は以下のとおり。

- Review of Japan's reduced allocation in accordance with paragraph 66 of the Report of CCSBT 13, which states:
削減された日本の配分に関するCCSBT13報告書第66パラグラフに基づくレビュー。これは以下のとおり。

“The members also agreed that, taking into account the findings of the review panel on the Japanese Market anomalies, the allocated catch of Japan should remain fixed at 3,000t for the minimum period of 5 years beginning from 2007. The Extended Commission will review the level of this allocation in 2011, and if the stock situation prevailing at the time will permit and the compliance measures put in place by the Extended Commission and the relevant authorities of Japan are deemed sufficient to ensure that all unreported catches are eliminated, this level will be reviewed.”;

「また、メンバーは、日本市場の不調和に関するレビューパネルによる知見を考慮して、日本の漁獲枠を2007年から最低5年間3,000トンに固定し続けるべきであることに合意した。拡大委員会は、2011年にこの配分レベルのレビューを行い、その時点の資源状態が許容し、拡大委員会及び日本の関係当局による遵守措置が、すべての未報告漁獲を除外することを確保するに十分と見なされる場合に、このレベルはレビューされる。」

- The allocation to South Africa for when it ratifies its Membership to the CCSBT (see the letter from South Africa provided at Attachment C);
南アフリカからの配分増加要求（別紙Cの南アフリカからの書簡参照）
- How CCSBT will allocate shares of the TAC to future new Members; and
将来の新規メンバーへのTAC配分方法
- Clear, predefined rules for allocation of the TAC whenever it is changed by the MP.
MPによってTACが変更された場合のTACの配分に関する明確で、事前に決定された規則

These issues were discussed at the August 2011 Special Meeting of the Extended Commission without being resolved. However, agreement was reached on certain general points relating to allocation of the TAC as follows:

これらの課題は、2011年8月の拡大委員会特別会合において議論されたが、解決には至っていない。しかしながら、TACの配分に関してある程度総論的な事項で合意が見られている。

- Members that have taken voluntary catch reductions should be able to cease taking those reductions.
任意の漁獲削減を実施しているメンバーについては、当該削減を中止することができるようにすべきである。
- All Members have an interest in returning to their nominal allocations as expressed in the report of CCSBT 16, and in moving all Members towards these nominal allocations as soon as the status of the stock allows.
全てのメンバーは、配分量を CCSBT16 報告書において明記されている名目量に戻すこと、及び資源状況が許せば可能な限り速やかに全てのメンバーの配分量をそれぞれの名目量に移行させることに関心を有している。
- A process needs to be developed for returning Japan's actual allocation of the TAC to its nominal percentage. The timing, rate and achievement of status of conditions mentioned in paragraph 66 of the Report of the CCSBT 13 for return are subject to further discussion.
日本の実際の TAC 配分量を、同国の名目配分量の比率に戻すためのプロセスを策定する必要がある。その時期、比率、及び第 13 回委員会年次会合報告書第 66 パラグラフに記載される配分量の回復のための条件の達成状況は、今後の議論次第である。
- South Africa's circumstances as a range State for SBT were recognised, and serious consideration to the level of allocation to South Africa is underway. Any new allocation in accordance with Article 8(4) of the Convention will be subject to South Africa acceding to the Convention.
SBT の生息国である南アフリカの状況が認識され、同国への配分レベルについての真摯な検討が継続中である。条約第 8 条 4 に基づく新規の配分については、南アフリカの条約への加盟が条件となる。
- In the event of a TAC increase, all Members should receive some proportion of that increase even in circumstances where part of the additional TAC may be applied on a non-proportional basis (e.g. allocation to new Members, return of past allocations etc.)
TAC を増加させる場合においては、仮に TAC 増加部分が比例的な形で配分されない（例えば、新規メンバーへの配分、過去の配分量への復活等）としても、全てのメンバーはその増加量のいくらかの割合を享受すべきである。
- Unless a CNM accedes to the Convention, the allocations of CNMs will remain at status quo levels during the first TAC-setting period.
CNM が条約に加盟するのではなくれば、最初の TAC 設定期間における CNM への配分量は現在のレベルを維持する。

Further guidance on allocation is provided in Article 8.4 of the Convention, which specifies that:

配分に関する更なる指針は、条約第 8.4 条において規定されている。

- “4. In deciding upon allocations among the Parties under paragraph 3 above the Commission shall consider:
- (a) relevant scientific evidence;
 - (b) the need for orderly and sustainable development of southern bluefin tuna fisheries;

- (c) *the interests of Parties through whose exclusive economic or fishery zones southern bluefin tuna migrates;*
- (d) *the interests of Parties whose vessels engage in fishing for southern bluefin tuna including those which have historically engaged in such fishing and those which have southern bluefin tuna fisheries under development;*
- (e) *the contribution of each Party to conservation and enhancement of, and scientific research on, southern bluefin tuna;*
- (f) *any other factors which the Commission deems appropriate.”*

「4. 委員会は、3の規定に基づき締約国に対する割当量を決定する際に、次の事項を考慮する。

- (a) 関連する科学的な証拠
- (b) みなみまぐろ漁業の秩序ある持続的発展の必要性
- (c) みなみまぐろが自国の排他的経済水域又は漁業水域を通過して回遊する締約国の利益
- (d) みなみまぐろの漁獲に従事する船舶の所属する締約国（歴史的に当該漁獲に従事してきた締約国及び自国のみなみまぐろ漁業が開発途上にある締約国を含む。）の利益
- (e) みなみまぐろの保存、増殖及び科学的調査に対する各締約国の寄与
- (f) 委員会が適当と認めるその他の事項」

Prepared by the Secretariat
事務局作成文書

**TAC 及びその配分に関する決定
についての CCSBT16 報告書からの抜粋**

49. 拡大委員会は、別紙 13 の「みなみまぐろの総漁獲可能量及び将来の管理に関する決議」に合意した。また、拡大委員会は、暫定的な管理措置の一部として、拘束力のある漁獲枠の上限に基づき 2010 年から 2011 年までの TAC を以下のとおり採択した。

	名目漁獲枠 (トン)	漁獲枠 (トン)	実際の漁獲枠の 制限
日本	5665	2261 (2010 – 2011)	2261 (2010 – 2011)
オーストラ リア	5665	4270 (2010 – 2011)	4015 (2010 – 2011)
ニュージー ランド	1000	754 (2010 – 2011)	709 (2010 – 2011)
韓国	1140	859 (2010 – 2011)	859 (2010 – 2011)
台湾	1140	859 (2010 – 2011)	859 (2010 – 2011)
インドネシ ア	750	651 (2010 – 2011)	651 (2010 – 2011)

50. 拡大委員会は、各メンバーが上記の表の 3 列目に記載された配分量に拘束されるべきことに合意した。
51. さらに、SBT 資源の再建に貢献するため、2010 年及び 2011 年において、オーストラリア及びニューージーランドは、上記の表の実際の漁獲枠の制限（4 列目）に記載されたとおり、それぞれ 255 トン及び 45 トンの自主的な削減を追加的に実施する。
52. また、拡大委員会は、CCSBT 条約第 11 条 2(b)の適用に関して、予算を上記表の 2 列目に記載した名目漁獲枠に比例して割り当てることに合意した。
53. 拡大委員会は、協力的非加盟国に対する 2010 年の暫定的な漁獲配分を以下のとおりとすることに合意した。

	漁獲枠(トン)
フィリピン	45
南アフリカ	40
欧州共同体	10

54. 拡大委員会は、2012 年の配分から使用される割当配分ルールに関する議論を 2010 年の拡大委員会会合から開始することにも合意した。
55. 2012 年及びそれ以降の割当配分を決定するにあたっては、ESC の報告書は十分に考慮されるものとする。

TACに関する決議
CCSBT 16 (別紙 13)

みなみまぐろの総漁獲可能量及び将来の管理に関する決議

みなみまぐろ保存拡大委員会は、

現在の資源状況及び特に産卵親魚資源量が初期産卵親魚資源量の 3% から 8% の間にあると助言した拡大科学委員会の最新の資源評価に重大な懸念を有し、拡大委員会は現在の総漁獲可能量の 11,810 トンから意味のある漁獲量の削減を実施すべきとした拡大科学委員会の勧告を考慮し、

みなみまぐろの最適利用のために、その保存及び管理を行う自らの責務を自覚し、

水産業界に対して総漁獲可能量の迅速かつ持続的な削減に適応するための時間を与えることが望ましいことを認識し、

合理的な期間内に、初期産卵親魚資源量の 20% とした暫定的な再建目標のリファレンス・ポイントまで資源を再建することを決意し、

資源を再建させるためには、非常に長い期間削減を継続する必要があることに留意し、

拡大委員会のメンバー及び協力的非加盟国が、漁獲量の水準が自国の国別配分を遵守したものとなることを確保し、拡大委員会によって採択された保存管理措置を実施するために、必要な手段を講じることの責務を認識し、

みなみまぐろの保存のための条約第 8 条 3(a) に従い、拡大委員会は次のとおり決定する。

1. 2010 年漁期及び 2011 年漁期における全世界の TAC は、2 年間の平均が現在の全水域の TAC の 80%¹ になるよう削減されるものとする。
2. したがって、2010 年漁期及び 2011 年漁期の全世界の TAC の平均は、9,449 トンとする。
3. メンバーは、自国の配分² の 2010 年漁期及び 2011 年漁期への分割方法を 2009 年 11 月 15 日までに事務局に公式に通告するものとする。
4. CCSBT の管理手続き (MP) は、2010 年の年次会合において拡大委員会がこれに合意できるよう、同年中に最終化されなければならない。
5. 加入量が歴史的に経験された低い水準よりさらに低くなった場合などの例外的状況に対し、緊急的な対応策が MP の一部として開発されな

¹各メンバーは一年目の漁獲量を可能な限り多く削減しなければならない、またメンバーは現在の水準より少なくとも 10% 以上の削減に努めなければならない。

² 国別配分に関するメンバーの合意の詳細は、拡大委員会報告書を参照。

ければならない。

6. MP は 2011 年に導入され、2012 年以降の TAC は MP に基づいて設定されなければならない。
7. MP が 2012 年までに最終化されない場合、拡大委員会は、同委員会が新たな資源評価に基づいて TAC を決定しない限り、2012 年漁期の TAC を 5,000 トンから 6,000 トンの水準まで削減することを採択するものとする。



agriculture, forestry & fisheries

Department:
Agriculture, Forestry and Fisheries
REPUBLIC OF SOUTH AFRICA

Marine Resource Management, Department of Agriculture, Forestry and Fisheries
Private Bag X2, Roggebaai 8012

Tel: +27 21 402 3048. Fax: +27 21 402 3622. E-mail: CraigS@daff.gov.za

6 January 2011

Mr Robert Kennedy
Executive Secretary
Commission for the Conservation of Southern Bluefin Tuna

Dear Sir

RE: South Africa's Ratification of the CCSBT Agreement

The South African Department of Agriculture Forestry and Fisheries; branch Fisheries (hereafter referred to as the Department) conveys its best wishes for the New Year to the CCSBT Secretariat and all Member Parties.

At the 2009 and 2010 Extended Commission meetings of the CCSBT South Africa expressed interest to ratify the CCSBT agreement and also indicated that it would require an increase in country quota allocation for the following reasons:

- a) South Africa is one of four range states for southern bluefin tuna and lies adjacent to one of the most important longline fishing grounds, but despite this, its allocation has been less than 0.5% of the TAC;
- b) South Africa has recently developed its tuna longline fishery with the first commercial long-term fishing rights allocated to South African nationals in 2005, but the development of this fishery is impeded as the current southern bluefin tuna quota of 40t is too small to allow any targeting of this species;
- c) The Department is responsible for the management of its tuna fisheries with stringent measures in place which exceeds CCSBT's management and conservation measures. Furthermore, South Africa has also complied with CCSBT's reporting requirements, and;
- d) In terms of the conservation of southern bluefin tuna South Africa is the most important Port State with approximately 20% of the global TAC passing through our ports. Consequently, South Africa has taken initiatives to ensure that our ports are not used as ports of convenience for the landing/transshipment of this species and is in regular correspondence with the CCSBT regarding its port state activities.

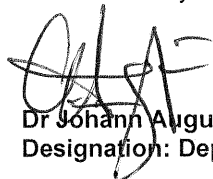
It is hereby confirmed that South Africa has started the ratification process, but in finalizing this process, South Africa would like to engage with the Member Parties to negotiate the terms of ratification at the upcoming Third Strategy and Fisheries Management Working Group meeting in Tokyo (29 March – 1 April 2011). In discussing South Africa's allocation it is hoped that the criteria in Article 8(4) of the Convention text shall be equitably applied to South Africa. In so doing South Africa should receive a quota that would be similar to other developing range states like New Zealand and Indonesia.

South Africa does acknowledge the challenges faced by Member Parties to initially reduce allocations in order to rebuild the stock and thereby we would like to propose the following means of lessening the impact of South Africa's increased allocation on Member Parties:

- 1) South Africa's increase in allocation should be considered on a stepwise progression over three – four years;
- 2) South Africa's first allocation should be in the order of 300-400 t and should be implemented immediately the year following the ratification of the CCSBT agreement;
- 3) South Africa's membership contribution to CCSBT shall be based on the current allocation for the year and not the final allocation agreed to, and;
- 4) South Africa's allocation shall be re-considered should the TAC increase due to a possible rebuilding of the stock biomass.

We firmly believe that South Africa has important contributions to make to CCSBT in terms of management, research and conservation of southern bluefin tuna, and we sincerely hope that the terms of South Africa's ratification of the CCSBT's agreement shall be favourably considered by all Member Parties.

Yours sincerely



Dr Johann Augustyn
Designation: Deputy-Director General (Acting): Fisheries